青い空と豊かな大地のために

いま動き出す土壌消毒の大きな力！

Nisso

土壌消毒剤

バスアミド® 微粒剤

®はKSTの登録商標です。

刺激臭が少ない　**優れた効果**　**散布が簡単**

■適用作物・病害虫・雑草と使用方法（ 2026年11月適用拡大）

＊本剤およびダゾメットを含む農薬の総使用回数の制限を示します。

作物名	適用病害虫・雑草名・使用目的	使用量	使用時期	総使用回数＊	使用方法
キャベツ	苗立枯病（リゾクトニア菌）、株腐病、萎黄病 バーティシリウム萎凋病	20～30kg/10a	は種又は定植21日前まで	1回	A
はくさい	根こぶ病、ネコブセンチュウ、一年生雑草				
	尻腐病、根くびれ病、黄化病				
だいこん	ネグサレセンチュウ	10～20kg/10a	は種21日前まで		
かぶ	バーティシリウム黒点病、根こぶ病、萎黄病 一年生雑草	20～30kg/10a			
ブロッコリー カリフラワー	テンサイシストセンチュウ	30kg/10a	は種又は定植21日前まで		
	根こぶ病、一年生雑草	20～30kg/10a			
非結球あぶらな科葉菜類 （非結球メキャベツ、こまつな、非結球はくさい、なばな類、チンゲンサイ、みずなを除く）	根こぶ病	30kg/10a	は種14日前まで		
	一年生雑草	20～30kg/10a			
非結球メキャベツ	萎黄病、一年生雑草		定植21日前まで		
こまつな	萎黄病、根こぶ病、一年生雑草		は種10日前まで		
非結球はくさい			は種又は定植14日前まで		
なばな類	根こぶ病、一年生雑草	20kg/10a	は種又は定植21日前まで		
チンゲンサイ		30kg/10a			
みずな	立枯病（ピシウム菌）、根こぶ病、一年生雑草		は種12日前まで		
はつかだいこん	一年生雑草	20kg/10a	は種35日前まで		
きゅうり	苗立枯病（ピシウム菌、リゾクトニア菌）	200～400g/m³	は種又は定植21日前まで		B
	つる割病、半身萎凋病、白絹病、一年生雑草	20～30kg/10a			A
かぼちゃ	フザリウム立枯病、苗立枯病（リゾクトニア菌）、一年生雑草				
メロン	黒点根腐病、つる割病、半身萎凋病、黒変根腐症 白絹病、一年生雑草				
	紅色根腐病	30kg/10a			
すいか	苗立枯病（リゾクトニア菌）	200～400g/m³			B
	つる割病、白絹病、一年生雑草	20～30kg/10a			A
にがうり	つる割病、ネコブセンチュウ、一年生雑草	200～300g/m³			
トマト ミニトマト	苗立枯病（リゾクトニア菌）	20～30kg/10a			B
	萎凋病、褐色根腐病、根腐萎凋病、白絹病、半身萎凋病 ネコブセンチュウ、一年生雑草				A
	紅色根腐病	30kg/10a			
	青枯病	30～60kg/10a			
ピーマン	苗立枯病（リゾクトニア菌）、半身萎凋病 萎凋病、白絹病、一年生雑草、青枯病	30kg/10a			
なす	青枯病				
	苗立枯病（リゾクトニア菌）、半身萎凋病、白絹病 ネコブセンチュウ、一年生雑草	20～30kg/10a			

バスアミド® 微粒剤

＊本剤およびダゾメットを含む農薬の総使用回数の制限を示します。

作物名	適用病害虫・雑草名・使用目的	使用量	使用時期	総使用回数＊	使用方法
ばれいしょ	そうか病、粉状そうか病、黒あざ病	20～30kg/10a	植付21日前まで	1回	A
	萎凋病、一年生雑草				
とうがらし類		30kg/10a	定植21日前まで		
	疫病、青枯病、苗立枯病（リゾクトニア菌）				
ねぎ	黒腐菌核病	30～60kg/10a	は種又は定植14日前まで		
	紅色根腐病、ネギハモグリバエ	30kg/10a			
	白絹病、小菌核腐敗病、萎凋病、根腐萎凋病 苗立枯病（リゾクトニア菌）、ネコブセンチュウ、一年生雑草	20～30kg/10a			
わけぎ	苗立枯病（リゾクトニア菌）、一年生雑草		は種又は定植21日前まで		
	黒腐菌核病	30kg/10a			
たまねぎ	黒腐菌核病	30～60kg/10a			
	紅色根腐病	30kg/10a			
	苗立枯病	20～40kg/10a			
	乾腐病、白絹病、ネコブセンチュウ、一年生雑草	20～30kg/10a			
	黒穂病、一年生雑草		秋期（翌春は種）		
	べと病	20kg/10a	は種14日前まで		C
葉たまねぎ（苗床）	一年生雑草	10～20kg/10a			
にんにく	黒腐菌核病、紅色根腐病、白絹病、イモグサレセンチュウ、一年生雑草	30kg/10a	植付28日前まで		A
らっきょう	黒腐菌核病、根腐病、乾腐病、ネコブセンチュウ、一年生雑草		植付21日前まで		
にら	黒腐菌核病、乾腐病、白絹病、紅色根腐病		は種又は定植21日前まで		
	一年生雑草	30～60kg/10a			
にんじん	萎凋病、根腐病、しみ腐病、乾腐病、白絹病、ネコブセンチュウ、一年生雑草	20～30kg/10a			
パセリ	苗立枯病（リゾクトニア菌）、疫病、萎凋病、一年生雑草	30kg/10a			
セルリー	萎黄病、一年生雑草				
あしたば	苗立枯菌（リゾクトニア菌）、一年生雑草		は種10日前まで		
しゅんぎく	萎凋病、一年生雑草	20kg/10a	は種21日前まで		
ごぼう 葉ごぼう	萎凋病	20～30kg/10a	は種28日前まで		
もりあざみ	黒あざ病、一年生雑草	30kg/10a	は種21日前まで		
	半身萎凋病				
レタス	黒根病、コルキールート病、ビッグベイン病、ネグサレセンチュウ		は種又は定植14日前まで		
	すそ枯病、白絹病、一年生雑草	20～30kg/10a			
非結球レタス	すそ枯病、根腐病、白絹病、一年生雑草				
	黒根病、コルキールート病、ビッグベイン病	30kg/10a			
食用ぎく	センチュウ類（ハガレセンチュウを除く）、萎凋病 半身萎凋病、白絹病、一年生雑草	20～30kg/10a	は種又は定植21日前まで		
	青枯病	30kg/10a			
ふき	半身萎凋病、白絹病、一年生雑草				
みつば	立枯病、一年生雑草	20kg/10a	は種21日前まで		
豆類（未成熟）、ただし、えだまめ、実えんどう、さやえんどう、さやいんげん未成熟そらまめを除く	苗立枯病（リゾクトニア菌）、茎腐病、一年生雑草	30kg/10a			A
さやいんげん	苗立枯病（リゾクトニア菌）、葉腐病、白絹病、一年生雑草	20～30kg/10a			
えだまめ			は種又は定植21日前まで		
	ダイズシストセンチュウ	30kg/10a			
未成熟そらまめ	えそモザイク病		は種21日前又は定植前45日前まで		
さやえんどう 実えんどう	苗立枯病（リゾクトニア菌）、茎腐病、一年生雑草	20～30kg/10a	は種又は定植21日前まで		
らっかせい	白絹病、一年生雑草	30kg/10a			
かんしょ	紫紋羽病、つる割病、白絹病、ネコブセンチュウ、一年生雑草	20～30kg/10a	植付21日前まで		
	基腐病	30kg/10a			
こんにゃく	白絹病、乾腐病	20～30kg/10a			
	根腐病、一年生雑草	20～60kg/10a			
さといも さといも（葉柄）	乾腐病、ネグサレセンチュウ、一年生雑草	20～30kg/10a			
しょうが	根茎腐敗病	30～60kg/10a	定植21日前まで		
	一年生雑草	20～30kg/10a			
葉しょうが	根茎腐敗病	30kg/10a			
	一年生雑草	20～30kg/10a			
みょうが（花穂） みょうが（茎葉）	立枯症、一年生雑草	30kg/10a	定植42日前まで		
いちご	萎黄病、萎凋病、炭疽病、芽枯病、一年生雑草	20～30kg/10a	仮植又は定植21日前まで		
	青枯病、疫病	30kg/10a			
ほうれんそう	ホウレンソウケナガコダニ	10kg/10a	は種10日前まで		C
	萎凋病、株腐病、立枯病、根腐病、一年生雑草	20～30kg/10a			A
てんさい	叢根病、苗立枯病	200～400g/m³	秋期（翌春は種）		
やまのいも やまのいも（むかご）	根腐病、褐色腐敗病、一年生雑草	20～30kg/10a	植付21日前まで		
つるむらさき	ネコブセンチュウ、一年生雑草		定植21日前まで		
しそ	青枯病、一年生雑草	30kg/10a	は種又は定植14日前まで		
モロヘイヤ	ネコブセンチュウ、一年生雑草		定植30日前まで		
チャービル	一年生雑草	20kg/10a	は種42日前まで		
かのこそう	半身萎凋病、一年生雑草	20～30kg/10a	定植28日前まで		
セネガ	一年生雑草	30kg/10a	は種又は定植前		

＊本剤およびダゾメットを含む農薬の総使用回数の制限を示します。

作物名	適用病害虫・雑草名・使用目的	使用量	使用時期	総使用回数＊	使用方法
おうぎ、せんぶり、みしまさいこ	一年生雑草	20～30kg/10a	は種前	1回	A
しゃくやく（薬用）	根黒斑病	30～40kg/10a	植付前		
	白絹病、ネコブセンチュウ、一年生雑草	20～30kg/10a			
薬用ごぼう	萎凋病、黒あざ病、一年生雑草		は種又は定植前		
たばこ	センチュウ類、角斑病、野火病	10～20kg/10a	秋期（翌春植付）		
	立枯病、黒根病、疫病、一年生雑草	20～30kg/10a			
	センチュウ類、疫病	5～10kg/10a	春期（植付前）		D
桑	紫紋羽病、白紋羽病	1株当り（4m²）400～600g	夏期～秋期		E
りんご		50～100g/m²			
なし	白紋羽病	100g/m²			
ぶどう		50～100g/m²			
芝	一年生雑草	目土用土1m³当り100～200g	雑草発生前		B
いぐさ		30kg/10a	は種又は定植21日前まで		A
			畑苗床での定植28日前まで（入水15日前まで）		
花き類・観葉植物	苗立枯病（リゾクトニア菌）、株腐病、球根腐敗病、首腐病、半身萎凋病 萎凋病、萎黄病、白絹病、立枯病、根頭がんしゅ病、ネコブセンチュウ	20～30kg/10a	は種又は植付前		
	青枯病	30kg/10a			
	一年生雑草	20～60kg/10a			
カーネーション	萎凋細菌病	20～30kg/10a			
きく	センチュウ類（ハガレセンチュウを除く）				
ストック	苗腐病				
	萎凋病	30～40kg/10a			
ぼたん、しゃくやく	根黒斑病		植付前		
スターチス	萎凋細菌病	20～30kg/10a	は種又は植付前		
グロリオサ	紅色根腐病				
スイトピー	腰折病				
さくらそう	軟腐病				
トルコギキョウ パンジー	根腐病				
アイスランドポピー	萎縮病				
せんりょう	立枯病、一年生雑草				
つつじ類	センチュウ類、一年生雑草				
樹木類（苗木）	一年生雑草		植付前		
樹木類	定植ほ場の南根腐病菌、ならたけ病菌、ならたけもどき病菌の密度低減	100g/m2	定植前		E

A：本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。　B：土壌に本剤の所定量を加え十分混和する。　C：本剤の所定量を均一に散布して浅く混和する。
D：本剤の所定量を畦面に散布して土壌と十分混和する。　E：被害株跡地に本剤の所定量を均一に散布して土壌と十分混和する。

散布から植付けまでの手順

① 土壌の整地
砕土はていねいに行う。砕土が不十分だったり、植物の残りかすがあると、効果不足の原因になる。

② 均一散布
散布は散布機または手（手袋着用）で均一に散布する。

③ 土壌混和
散布後直ちにロータリーなどで、15～25cmの深さまで十分に混和する。

④ 散水
土壌水分が不足している場合は、処理後散水する。（土壌の湿り具合は、軽く握って崩れない程度が適正）

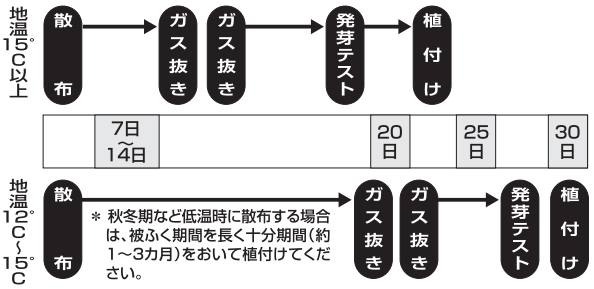
⑤ 表土を被覆
有効なガスが抜けないように混和後、必ず表土をビニールなどで被覆する。

⑥ ガス抜き（最低2回）
通常の使用では処理後地温15℃以上の場合は7～14日目にビニールを除去し、ロータリーなどで1回目のガス抜きを行う。その後2～3日後に再度ガス抜きを行う。ただし重粘土の土壌や降雨などにより土壌水分が多い場合は、ガスの拡散が遅いので被覆期間を延長する。

⑦ 発芽テスト
2回目のガス抜き後2～3日目に、ガスが完全に抜けたかどうかレタス・大根・カラシナなどのタネを用い、密封できる容器を使って室温で発芽テストを行う。

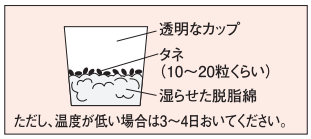
⑧ 施肥・植付け
発芽テストで異常のないことを確かめてから施肥・植付けを行う。必ず無病の苗を用いる。堆肥は完熟堆肥を使用する。

●散布から植付けまでの目安



●発芽テストの方法（2回目のガス抜き作業が終わってから2～3日後に行う）

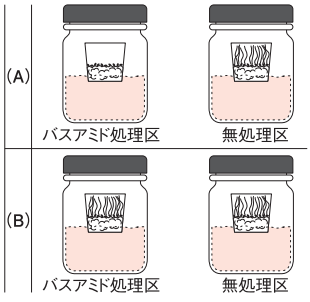
①密封できる透明な広口びんを最低2個用意し、一つにはバスアミドを処理した土（深さ10～15cmの所）、もう一つには無処理の土を、それぞれ半分くらい入れる。処理した土はびんに入れたらすぐにふたをする。（バスアミドを処理した土は、できれば違う場所数ヶ所から採取し、それぞれテストする）



②透明なカップに、湿らせた脱脂綿を入れ、発芽の早い野菜の種子を播き、それをびんの中に置く。再びすぐに密閉し、室温の高い所に2日ほど置き、発芽状態をチェックする。

③処理区の種子が発芽しなかったり、発芽抑制を受けている場合は土壌中にガスが残っているので、再度ガス抜きを行う。（A）

④処理区の種子が無処理区と比べ、発芽に異常がないと認められてから植え付けをする。（B）



バスアミド® 微粒剤

農林水産省登録：第23478号

●有効成分：ダゾメット…96.5%　●人畜毒性：医薬用外劇物

殺虫剤分類 8F　●包　装：10kg×2袋

⚠ 効果・薬害などの注意

●使用量に合わせ秤量し、使いきってください。
●処理する前に耕起整地してください。
●本剤は土壌中の水分によって分解し、ガスを発生することによって効果を発揮するもので、土壌の種類、水分含量、温度等により効果にふれが出るので、以下のことに十分留意してください。
①地温が10℃以下の時には使用しないでください。
②砂質土壌や乾燥した土壌で使用又は紙製被覆資材で被覆する場合は、ていねいに混和した後、灌水して適度の水分を与えてから被覆してください。
③次の場合はガスの拡散が遅いので、被覆期間を適宜延長してください。
ア.重粘土質の土壌の場合
イ.降雨などにより土壌水分が多い場合
ウ.地温が低い（15℃以下）場合
●センチュウが多発する条件、あるいは、トマト、なすでは、センチュウ類に対する効果が劣る場合があるので、センチュウを防除対象とする場合には、他の防除方法と併用して使用してください。
●ガス抜きが不十分であると薬害が生じるおそれがあるので、少なくとも2回は耕起によるガス抜きを実施してください。なお、ガス拡散の遅い条件の場合は特にていねいに行ってください。
●全面に処理する場合、深さ15～25cmに土壌と十分に混和してください。特にやまのいもに使用する場合、深さ50～60cmに土壌と十分に混和してください。混和後ビニール等で被覆または鎮圧散水してガスの蒸散を防いでください。7～14日後被覆を除去して、ガス抜きを行ってください。
●苗立枯病または芝の目土用土に処理する場合、本剤を十分混和後ビニール等で被覆し、7～14日後被覆を除去して、ガス抜きを行ってください。
●作物に直接ふれると薬害を生じるので、周辺に作物がある場合にはかからないように、十分間隔をおいて薬剤を処理してください。
●温室やビニールハウスなどの施設内に作物がある場合、薬害を生じるおそれがあるので使用しないでください。
●りんご、桑、なし及びぶどうに使用する場合は、被害株を抜き取った跡地の周辺部を含めて、できるだけ広めに散布し、深さ25～40cm（りんごの場合は深さ40cm）に土壌と均一に混和してください。本剤処理20日後に被覆を除去して耕起し、翌春に植え付けてください。また、りんご、なし及びぶどうでは、植え付けた年は果実を収穫しないでください。
●樹木類に使用する場合は、以下の点に注意してください。
①南根腐病菌の密度低減のため樹木類に使用する場合は、行政機関等（県、市町村）から南根腐病の発生地域として指定された防除を必要とする場所での使用に限ります。また、安全管理及び使用方法については、沖縄県の安全使用に係る指導内容を遵守し、人畜等への危被害防止に十分配慮してください。
②ならたけ病菌の密度低減及びならたけもどき病菌の密度低減のため樹木類に使用する場合、安全管理及び使用方法については、各都道府県の森林組合連合会、また林業試験場の安全使用に係る指導内容を遵守し、人畜等への危被害防止に十分配慮してください。
③被害株を抜き取った跡地の周辺部を含めてできるだけ広めに本剤を散布し、深さ45cmに土壌と均一に混和し、ガスバリアー性フィルムで被覆してください。本剤処理30日後に被覆を除去して耕起し、植え付けてください。
●ごぼう及び薬用ごぼうに使用する場合は生育抑制・岐根等の薬害を生じるおそれがあるので、処理からは種までの期間を十分とり、ガス抜きをていねいに行い、発芽テスト等で安全を確認の上、は種してください。
●しょうが及び葉しょうがの根茎腐敗病に対しては、多発生条件では効果が不十分な場合があるので注意してください。
●は種又は定植の20～10日前に使用する場合は、地温20℃以上の条件に限って使用してください。
●芝の目土に処理する場合は、目土中に含まれる雑草種子を殺す目的で目土を処理するものであるので、除草剤として芝生に直接散布することのないように注意してください。
●葉たまねぎ（苗床）及びたまねぎの、は種14日前までに使用する場合、均一に散布後、レーキ等で浅く（2～3cm）混和し、ビニール等で被覆してください。7日後に被覆を除去し、さらにその後7日間放置し、は種前にレーキ等で浅く整地しガス抜きを行ってください。
●たまねぎのべと病は感染力が強く拡がりやすい病害のため、散布剤との体系処理を行い、感染防除に努めてください。
●たまねぎに秋期に使用する場合、均一に散布後、十分混和し、ビニール等で被覆してください。約20日後に被覆を除去してガス抜きを行ってください。は種は翌春に行ってください。
●ほうれんそうのホウレンソウケナガコナダニに使用量10kgで使用する場合、均一に散布後、レーキ等で浅く（2～3cm）混和し、ビニール等で被覆してください。5～10日後に被覆を除去し、は種前にレーキ等で浅く整地し、ガス抜きを行ってください。
●てんさいに秋期に使用する場合、均一に散布後、十分混和し、ビニール等で被覆してください。約20日後に被覆を除去してガス抜きを行ってください。は種は翌春に行ってください。
●たばこに使用する場合、次のことに注意してください。
①秋期に使用する場合、本剤を均一に散布後、十分混和してください。混和後鎮圧してガスの蒸散を防ぎ翌春耕起した後、植え付けてください。
②春期に使用する場合、本剤を散布後、十分混和してください。混和後そのまま放置し、2週間後に畦立てをし、その2日後にビニール等で被覆してください。さらに2週間後に植え付けてください。
●ミツバチの巣箱周辺での使用はさけてください。
●使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
●適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

⚠ 安全使用上の注意



●医薬用外劇物。取扱いには十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
●眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
●皮ふに対して刺激性があるので、皮ふに付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
●本剤の処理の際は、吸収缶付き（活性炭入り）防護マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣、ゴム長靴などを着用してください。
ガス抜き作業の際及び、ガス抜き作業前に施設内に立ち入る場合にも、同様の防護マスクを着用してください。また、薬剤が皮ふに付着したり、粉末や発生するガスを吸い込んだりしないよう注意し、作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
●作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯してください。
●かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
●作業に際してはガスに暴露しないよう、風向き等を十分配慮してください。
●作業中及びくん蒸中の圃場等へ、小児等作業に関係のない者や、家畜、家禽が立ち入らないよう十分注意してください。
●住宅付近での使用に当たっては、ガスによる危被害の発生防止に十分配慮してください。
●街路、公園等の小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入るおそれのある場所で使用する場合は、発生するガスによって人畜等に被害を及ぼさないよう作業中、くん蒸及びガス抜き中は縄囲い及び立て札などを設置し、可能な限り広く立入禁止区域を設けてください。
●水にふれると有毒なガスが発生するので保管及び取扱いに注意してください。

水産動植物への影響：水産動植物（魚類、甲殻類、藻類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないように注意して使用してください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管：密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼・乾燥した所にカギをかけて保管してください。種子・苗・肥料、他の農薬などと隔離してください。盗難・紛失の際は警察に届け出てください。

●バスアミド微粒剤の上手な使い方

①クロルピクリンとの同時処理は、作物への影響期間が長くなるため、絶対さけてください。
②施設内で使用する場合、十分換気をして作業を行ってください。本剤は地温が高いほどガスの拡散が速いので、作業はできるだけ早朝など地温の低い時に行い、散布後速やかに土壌混和し被覆してください。大型連棟ハウスでは、散布から土壌混和、被覆までの一貫作業を小面積ごとに順次行うようにしてください。

本資料は2026年11月現在の登録に基づいています。

○使用前にはラベルをよく読んでください。○ラベルの記載以外には使用しないでください。○小児の手の届く所には置かないでください。

製造元 アグロ カネショウ株式会社
東京都千代田区丸の内1－8－3

販売元 日本曹達株式会社
〒100-7010 東京都千代田区丸の内二丁目7番2号
お問合せ（03）4212-9655
（平日9～12時、13～17時、土日祝日を除く）

最新の登録内容、SDSはこちら

農林水産省登録
第１７７１８号

技術資料

青い空と豊かな大地のために。

いま動き出す土壌消毒の大きな力







Q&A

21世紀を担う土壌消毒剤

バスアミド®

微粒剤

® はアグロカネショウの登録商標です。



日本曹達株式会社

バスアミド®
微粒剤

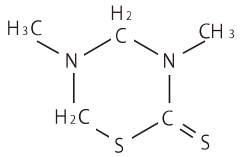


バスアミドは土壌消毒剤として
1980年に非食用作物に登録されました。
その後1990年に食用作物分野へと登録拡大され、
現在では多くの作物に登録があります。
すでにご周知の通り、
臭化メチルの使用は2005年に全廃されます。
本剤はその代替剤として注目され、
今後ますます使用が増えることが予想されます。
つきましてはここに、
本剤の特長を新しい知見を含め
ご紹介させていただきますので、
今後のご指導にあたっての
ご参考となれば幸いです。



■化合物の名称および化学構造

有効成分の一般名：ダゾメット
商品名：バスアミド微粒剤
試験名：BJL-861微粒剤
化学名：3、5-ジメチルテトラヒドロ-2H-1,3,5-チアジアジン-2-チオン
構造式：



■純品の理化学的性質

分子式：$C_5H_{10}N_2S_2$
分子量：162.3
外　観：類白色結晶
融　点：104～105℃
蒸気圧：4.35×10^{-6} mmHg（20℃）
溶解度：○水：0.36g/100g（20℃）
安定度：○熱：50℃で2年間安定（包装容器未開封）
○酸性：0.1NHCl半減期0.62時間
○アルカリ性：0.1NNaOH直ちに加水分解
○光：人工光照射（238～579nm）で半減期>24時間

■安全性

1. 人畜毒性（医薬用外劇物）
急性経口：ラット　LD_{50}　♂550mg/kg　♀710mg/kg
急性経口：マウス　LD_{50}　♂455mg/kg　♀430mg/kg
急性経皮：ラット　LD_{50}　♂2,260mg/kg　♀2,600mg/kg
急性経皮：マウス　LD_{50}　♂2,400mg/kg　♀2,530mg/kg

眼粘膜刺激性：ほとんど刺激性なし（ウサギ）
皮膚刺激性：刺激性なし（ウサギ）
※ただし、MITCは刺激性があります（強度）。

2. 水生動物に対する毒性（A類相当）
コ　イ　TLm（48時間）>10ppm
ミジンコ　TLm（3時間）>40ppm

3. 鳥類に対する毒性
アメリカウズラ（急性経口）　LC_{50} >5,000ppm
マ　ガ　モ（急性経口）　LC_{50} >5,000ppm

もくじ

バスアミド微粒剤とは
化合物の名称および化学構造、純品の理化学的性質、安全性……2
特長、作用機作……3

バスアミド微粒剤の使用方法について
Q 1　作業手順はどのようにすればよいのですか？……4
Q 2　処理時の土壌水分はどの程度がよいのですか？……6
Q 3　処理時の温度（地温）によって違いはありますか？……7
Q 4　土壌の種類によって効力に違いはありますか？……7
Q 5　MITCガスは土壌中でどのように移行しますか？……8
Q 6　バスアミド粒子は混和深度まで確実に分散していますか？……9
Q 7　各場面での使用方法を具体的に教えてください。……10
Q 8　鎮圧でキャベツ・はくさいの根こぶ病を防除する際の効果的な使用方法を教えてください。…14
Q 9　表層混和処理をする際の注意点は何ですか？……15
Q 10　苗床の床土消毒をする場合の簡単な方法を教えてください。……15
Q 11　苦土石灰や石灰窒素と同時に混和しても大丈夫ですか？……16
Q 12　骨粉や完熟堆肥と同時に混和しても大丈夫ですか？……16
Q 13　雑草に対する効果を草種別に教えてください。……17
Q 14　土壌害虫に対しても効果がありますか？……18
Q 15　殺センチュウ剤との体系処理方法を教えてください。……19
Q 16　バスアミドとクロルピクリンの同時処理は可能ですか？……20
Q 17　バスアミドのガス抜きが不十分な場合に生じる薬害の症状を教えてください。……21

特　長

土壌病害、雑草およびセンチュウに対して効果のある総合土壌消毒剤です。従来の土壌くん蒸消毒液剤のような刺激臭が少なく、またオゾン層に影響がないなど、環境に対する影響の少ない薬剤です。

1 刺激臭が少ない。

刺激性の臭いが少ないので、周辺の民家などに迷惑を掛ける心配が少ない薬剤です。また、毒性も比較的低く、作業者に対する安全性が高い薬剤です。

2 優れた効果。

広範囲の土壌病害および、センチュウに優れた効果を発揮します。また、雑草に対しても高い殺草効果があります。

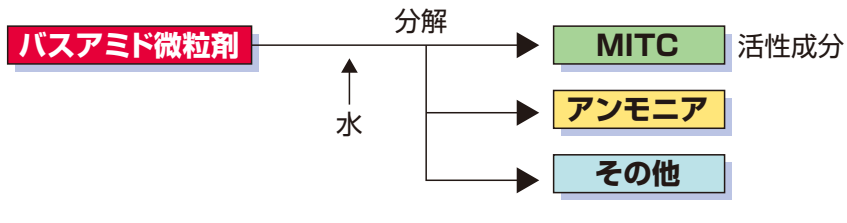
3 散布が簡単。

微粒剤ですから、散粒器または手（手袋着用）で簡単に散布できます。そのうえ、均一に散布されたかどうかは目で確認できます。

作用機作

散布したバスアミド微粒剤は土壌水分によって速やかに分解され、活性成分であるメチルイソチオシアネート（MITC）を生成し、土壌中に拡散します。
このMITCが土壌中の微生物などの呼吸作用におけるSH基酵素を阻害します。

バスアミド微粒剤の分解



Q1 作業手順はどのようにすればよいのですか?

全栽培

散水
土壌が乾燥している場合は耕起前に散水してください。

耕起
砕土はていねいに行なってください。砕土が不十分だったり、植物の残りかすがあると、効果不足の原因となります。

バスアミドを均一に散布（使用量は作物ごとにご確認ください）
日曹バスアミド散粒器または手（ゴム手袋着用）で均一に散布します。

深さ15～25cmまで土壌混和
バスアミド散布後、直ちにロータリーまたはくわで混和します。

散水
土壌水分が不足している場合は、処理後散水してください。水分不足は効果不足や薬害の原因となります。（湿り具合は、軽く握って崩れない程度が適正です）。

ハウス栽培（太陽熱消毒併用）

散水
土壌が乾燥している場合は耕起前に散水してください。

耕起
砕土はていねいに行なってください。砕土が不十分だったり、植物の残りかすがあると、効果不足の原因となります。

バスアミドを均一に散布（使用量は作物ごとにご確認ください）
日曹バスアミド散粒器または手（ゴム手袋着用）で均一に散布します。

深さ15～25cmまで土壌混和
バスアミド散布後、直ちにロータリーまたはくわで混和します。

小畝立て

○散布から植え付けまでの目安

地温 15℃以上

散布・混和 → 被覆 7～14日間 → ガス抜き → 2～3日間 → ガス抜き → 2～3日間 → 発芽テスト → 2～3日間 → 播種・植え付け

約20日目以降

散布から播種・植え付けまでに要する日数（目安）

地温	被覆日数
25℃以上	10～14日
15～25℃	14～21日
10～15℃	30日

※播種または植え付け前20～10日に使用する場合には、地温20℃以上の条件に限ります。

地温 12～15℃

散布・混和 → 被覆 20日間 → ガス抜き → 2～3日間 → ガス抜き → 2～3日間 → 発芽テスト → 2～3日間 → 播種・植え付け

※低温時に散布する際は、被覆期間を約1～3か月おいてから播種・植え付けを行なってください。

約30日目以降

⚠効果・薬害等の注意

●本剤は土壌中の水分によって分解し、ガスを発生することによって効果を発揮するもので、土壌の種類、水分含量、温度等により効果にふれが出るので、以下のことに十分留意してください。

①地温が10℃以下のときには使用しないでください。

②砂質土壌や乾燥した土壌で使用する場合は、ていねいに混和した後灌水して適度の水分を与えてから被覆してください。

③次の場合はガスの拡散が遅いので、被覆期間を適宜延長してください。

ア.重粘土質の土壌の場合

イ.降雨などにより、土壌水分が多い場合

ウ.地温が低い（15℃以下）場合

●センチュウが多発する条件、あるいはトマト・なすではセンチュウ類に対する効果が劣る場合があるので、センチュウを防除対象とする場合には、他の防除方法と併用して使用してください。

●ガス抜きが不十分であると薬害を生ずるおそれがあるので、少なくとも2回は耕起によるガス抜きを実施してください。なお、ガス拡散の遅い条件の場合は特にていねいに行なってください。

●りんごおよび桑の紫紋羽病・白紋羽病、なしおよびぶどうの白紋羽病の防除に使用する場合は、被害株を抜き取った発病のあと地の周辺部を含めて、できるだけ広めに処理してください。

●本剤が作物に直接触れると薬害を生ずるので、周辺に作物がある場合にはかからないように十分間隔をおいて薬剤を処理してください。

●温室やビニールハウスなどの施設内に作物がある場合、薬害を生ずるおそれがあるので使用しないでください。

●しょうがの根茎腐敗病に対しては、多発生条件下では効果が不十分な場合があるので注意してください。

●は種前20～10日に使用する場合は、地温20℃以上の条件に限って使用してください。

●芝の場合、目土中に含まれる雑草種子を殺す目的で目土を処理するものであるので、除草剤として芝生に直接散布することのないように注意してください。

●だいこんの「つまみ菜」および「まびき菜」には使用しないでください。

●いちご萎黄病に対しては、多発条件下で効果が劣る場合があるので、他の防除方法と併用してください。

1～3週間後
ただし地温が低い場合や重粘土質の土壌や降雨等によって土壌水分が多い場合は、ガスの拡散が遅いため被覆期間を延長してください。(6p「散布から植え付けまでの目安」参照)

ビニール被覆または水封
ビニールなどで土壌を被覆するのが最も理想的です。またはローラーをかけて土壌を鎮圧して散水を行なってください。

ビニール被覆 → **畝間注水** → **ハウス密閉** → 約1か月後 → **被覆除去およびガス抜き(2回)**

消毒されていない部分の土壌が混ざると病原菌が急速に増殖し、病気が蔓延する危険があるため、ガス抜き時の混和深度は、処理時の深度以上にはしないでください。
ビニールを除去し、ロータリーなどで1回目のガス抜きを行ない、2～3日後に再度ガス抜きを行ないます。被覆除去後、湛水・代かきは行なわないでください。

2～3日後

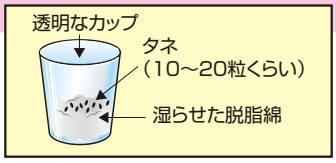
発芽テスト
植え付けの前に、土壌中のガスが完全に抜けたかどうか発芽テストを行なってから植え付けてください。
(下図参照)

播種・定植・植え付け

発芽テストの方法

2回目のガス抜き作業終了後、2～3日後に行なってください。

1.密封できる透明な広口ビンを最低2個用意し、一つにはバスアミドを処理した土(深さ10～15cmの所)を、もう一つには無処理の土をそれぞれ半分くらい入れる。処理した土はびんに入れたらすぐふたをする。バスアミド処理土はできれば異なる数か所から採種し、それぞれテストする。
2.透明なカップの中に湿らせた脱脂綿を置き、その上に発芽の早い野菜の種子を入れ、それをびんの中に置く。再びすぐに密閉し、室温の高い所に2日ほど(低温の場合は3～4日)置き、発芽状態をチェックする。
3.バスアミド処理区の種子を無処理区と比較し、異常がないことを確認してから植え付けを行なう。発芽しなかったり、発芽抑制を受けている場合は、土壌中にガスが残っているので再度ガス抜きを行なう。



(ただし温度が低い場合は3～4日おいてください。)



⚠安全使用上の注意

●作業に際してはガスに暴露しないよう、風向きなどを十分配慮してください。
●作業中およびくん蒸中の圃場などへ、小児など作業に関係のない者や、家畜・家禽が立ち入らないよう十分注意してください。
●住宅地付近での使用に当たっては、ガスによる危被害の発生防止に十分配慮し、特に住宅に隣接する圃場では使用しないでください。
●適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。
●使用方法などを厳守してください。特に初めて使用する場合は、農業改良普及センター・病害虫防除所等、関係機関の指導を受けることをおすすめします。
●本剤の処理の際は、吸収缶付き(活性炭入り)防護マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣、ゴム長靴などを着用してください。ガス抜き作業の際および、ガス抜き作業前に施設内に立ち入る場合にも、同様の防護マスクを着用してください。また、薬剤が皮膚に付着したり、粉末や発生するガスを吸い込んだりしないよう注意し、作業後は直ちに身体を洗い流し、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。
●作業時に着用していた衣服などは、他のものとは分けて洗濯してください。
●医薬用外劇物。取り扱いには十分注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当てを受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当てを受けてください。
●本剤は皮ふに対して強い刺激性があるので、皮ふに付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
●かぶれやすい体質の人は取り扱いに十分注意してください。
●本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。
●水に触れると有毒なガスが発生するので、保管および取り扱いに注意してください。

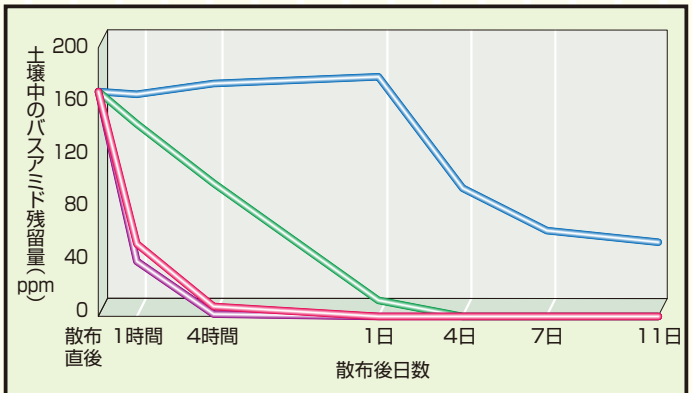
保管…密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼・乾燥した所に、カギをかけて保管してください。種子・苗・肥料、他の農薬などと隔離してください。盗難・紛失の際は警察に届け出てください。

Q2 処理時の土壌水分はどの程度がよいのですか?

手で握って形が崩れない程度が目安です。

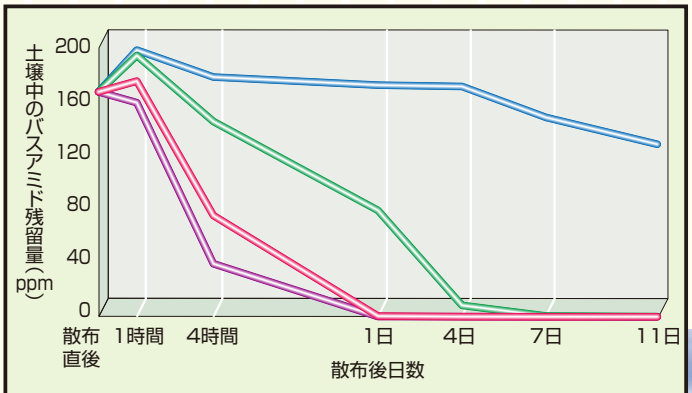
バスアミドを加水分解して活性成分のMITCを生成するには、適度な土壌水分が必要となりますが、水分が不足するとバスアミドの分解が遅くなり、逆に多すぎるとガスの拡散を妨げてしまいます。土壌の種類によって容水量が異なりますが、バスアミドが効率的に効果を示すには最大容水量の60～70%（土壌水分として20～40%）が望ましく、手で握って形が崩れない程度がめやすとなります。

○壌質砂土（容器内試験）



	1区	2区	3区	4区
対最大容水量(%)	16.7	33.3	66.7	100
土壌水分(%)	5	10	20	30

○砂壌土（容器内試験）



	1区	2区	3区	4区
対最大容水量(%)	11.9	23.8	47.6	100
土壌水分(%)	5	10	20	42



■最適土壌水分の目安

○黒ボク土

			適正状態			
ビーカーに詰めてから逆さにした状態						
手で握った状態						
圃場容水量割合(%)	40	50	60	70	80	90
土壌水分割合(%)	16	20	25	29	33	37

○函南黄褐色土

			適正状態			
ビーカーに詰めてから逆さにした状態						
手で握った状態						
圃場容水量割合(%)	40	50	60	70	80	90
土壌水分割合(%)	16	20	24	28	32	36

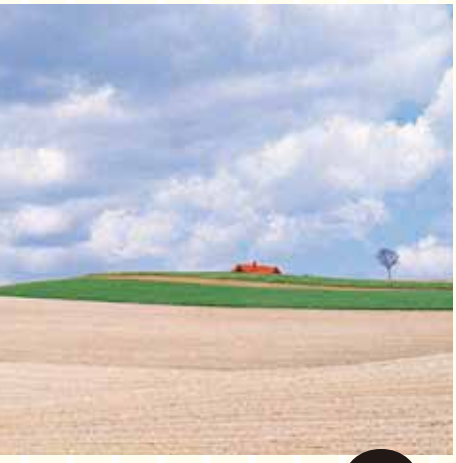
Q3 処理時の温度（地温）によって違いはありますか?

土壌温度が高いほど、分解が促進されます。低温時に処理する場合は、被覆期間を長く（約1～3か月）おいてから播種・植え付けをしてください。

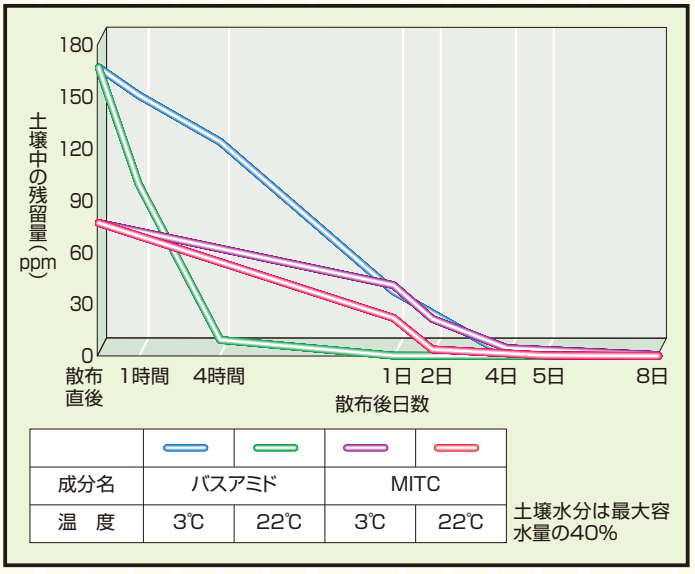
バスアミド・MITCともに地温が高いほど分解が促進され、25℃（地温）以上では急速に分解がすすみます。逆に低温ではバスアミド・MITCとも分解が遅くなるため、秋冬期など低温時に処理する場合は、被覆期間を長く（約1～3か月）おいてから播種・植え付けをしてください（Q1の「散布から植え付けまでの目安」を参照）。

○散布から播種・植え付けまでに要する日数

地　温	日　数
25℃以上	10～14日
15～25℃	14～21日
10～15℃	30日



○壌質砂土（容器内試験）



Q4 土壌の種類によって、効力に違いはありますか?

MITCの分解速度は土壌中の有機物含量によって異なるので、注意してください。

バスアミドからMITCへの分解には影響ありませんが、MITCの分解速度は土壌中の有機物含量によって異なるので、注意してください。有効成分の拡散を促すため、耕起は十分に行なってください。

○土壌中の有機物含量とMITC分解速度の関係

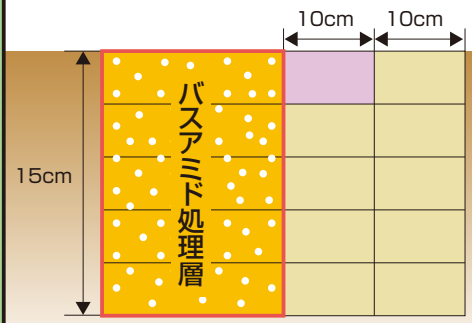
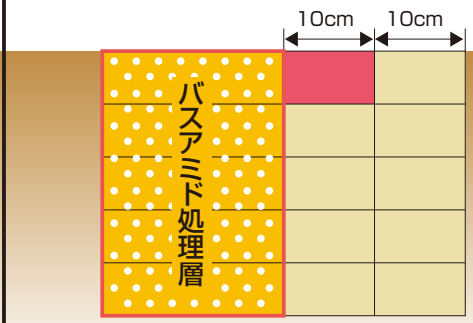
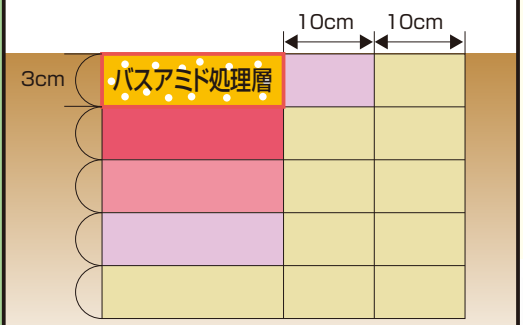
有機物含量	少量（砂質土壌）	適　度	過　多
分解速度	遅い（薬害のおそれ）	早い	ー（吸着による効果不足）
対　策	被覆期間の延長	ー	薬量を多めに使用

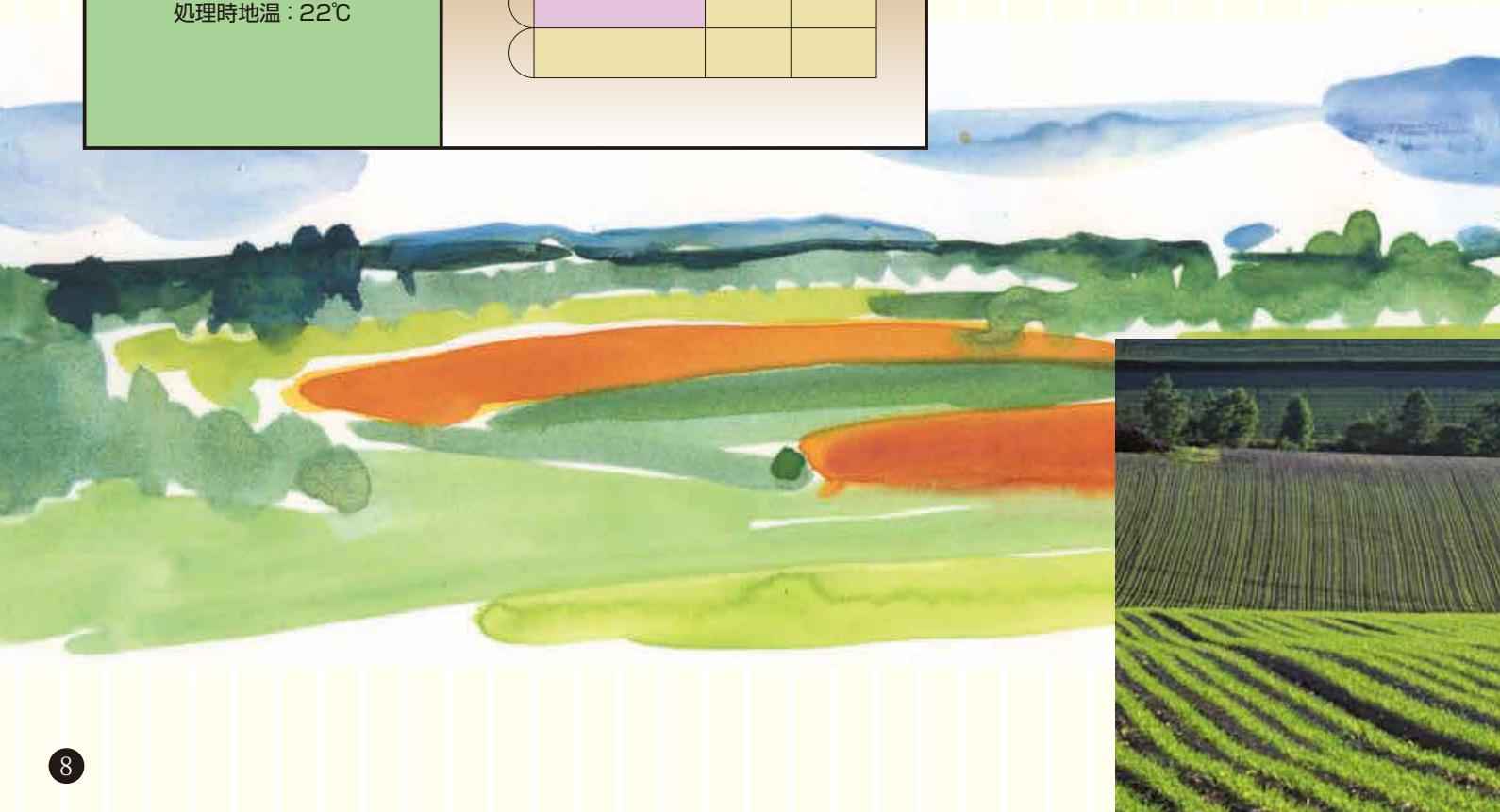
Q5 MITCガスは土壌中でどのように移行しますか?

横方向へはほとんど移行しないため、均一な散布が重要となります。

MITCガスは、土壌中で主に上方に移動しますが、下方・横方向へはほとんど移動しません。そのため効果安定のためには、均一な散布が重要となります。

効　果　◎　○　△　×

	20kg/10a処理	30kg/10a処理
通常混和処理 混和深度：15cm 散 水 量：10mm 被　　覆：7日間 処理時地温：22℃		
表層混和処理 混和深度：3cm 散 水 量：10mm 被　　覆：7日間 処理時地温：22℃		



Q6 バスアミド粒子は、混和深度まで確実に分散していますか?

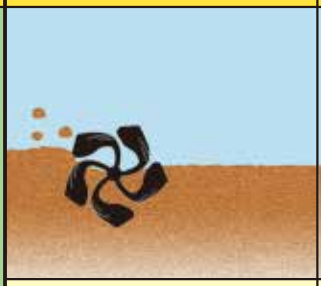
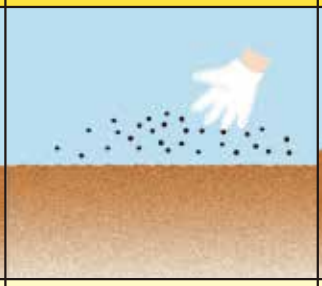
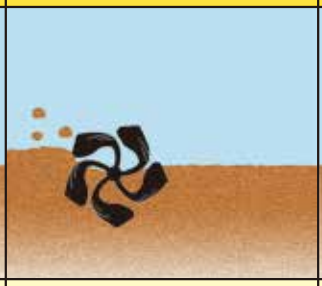
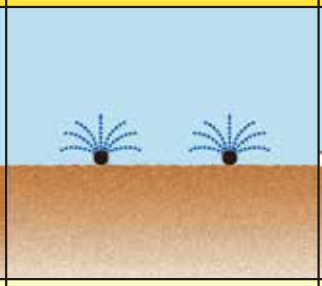
処理後に土壌混和することで、混和深度まで均一に分散することが確認されています。

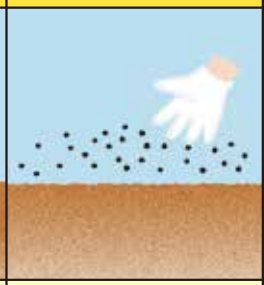
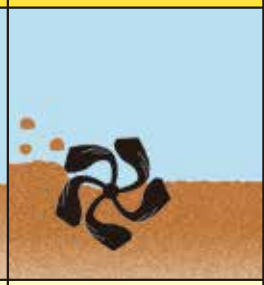
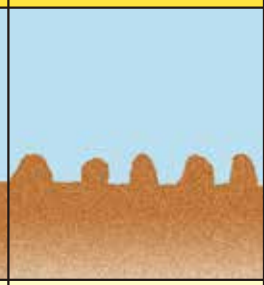
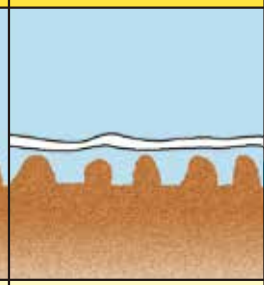
○通常混和処理（混和深度20cm）

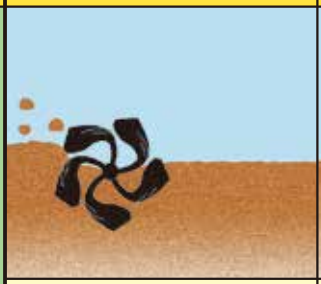
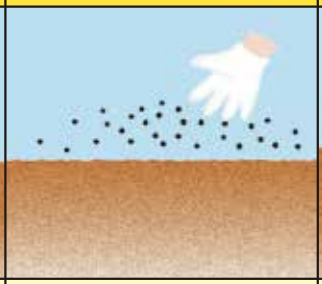
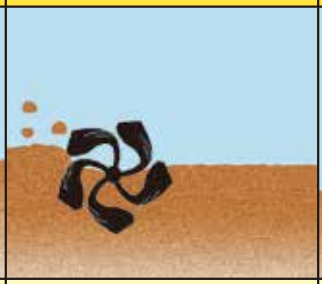
土壌深度(cm)	バスアミド粒子分散	効　果
0～3	すべての深度で粒子の分子を確認	高　い
3～6		
6～9		
9～12		
12～15		
15～18		
18～21		



Q7 各場面での使用方法を具体的に教えてください。

使用場面	① 耕　起	② 均一散布	③ 土壌混和	④ 散　水	
ハウス・本　圃（基本型）					
ていねいに砕土 植物残渣などを取り除く 土壌が乾燥している場合は耕起前に散水してください	日曹バスアミド散粒器などで均一に散布 （薬量は作物別に確認）	ロータリーなどで均一に混和 （深さ15～25cm）	適正な土壌水分に （水不足は効力不足・薬害の原因！） P8.Q2参照	ビニ （被	

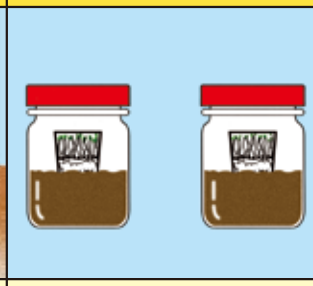
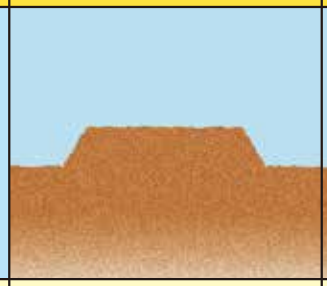
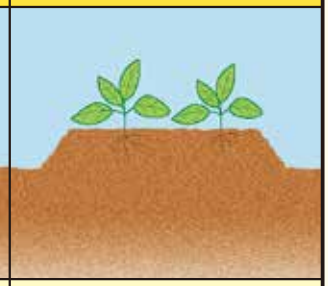
使用場面	① 耕　起	② 均一散布	③ 土壌混和	④ 小畝立て	⑤ ビニール被覆	
ハウス（太陽熱消毒併用）						
ていねいに砕土 植物残渣などを取り除く	日曹バスアミド散粒器などで均一散布 （薬量は作物別に確認）	ロータリーなどで均一に混和 （深さ15～25cm）	畝幅をできるだけ狭く小畝立にする	畝立後直ちにビニールなどで被覆	畝	

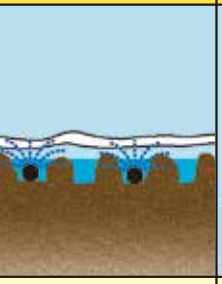
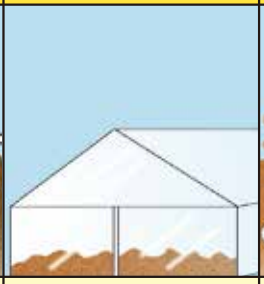
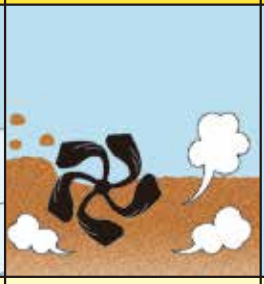
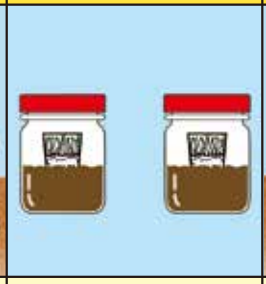
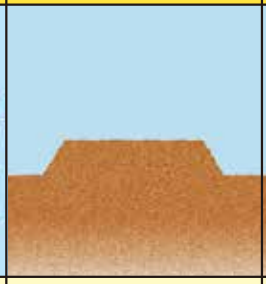
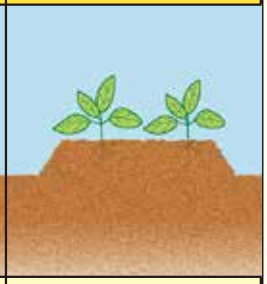
使用場面	① 耕　起	② 均一散布	③ 土壌混和	④ 鎮　圧	
露　地（秋期・春期）					
ていねいに砕土 植物残渣などを取り除く 降雨後適度な土壌水分時に実施してください	一般的には20～30kg/10a （薬量は作物別に確認） 日曹バスアミド散粒器などで均一散布（薬量は作物別に確認）	ロータリーなどで均一に混和 （深さ15～25cm）	タイヤ圧などで鎮圧	可能 さい	

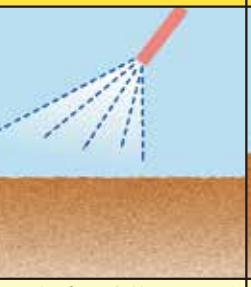
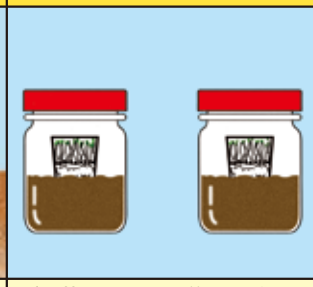
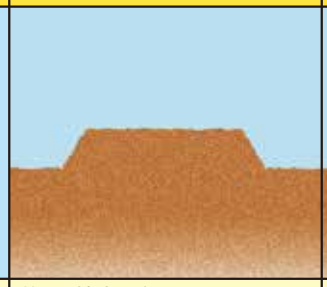
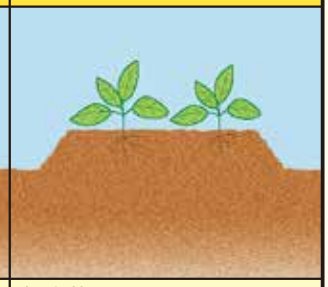


注意事項

●基本的な使用方法はQ1をご参照ください。
●使用前に防護マスク・不浸透性手袋・ゴム長靴を必ず着用してください。

⑤ ビニール被覆	⑥ 被覆除去・ガス抜き	⑦ 発芽テスト	⑧ 畝　立	⑨ 播種・定植・植え付け
				
ールなどで被覆 覆期間は十分に!）	被覆を除去し、ガス抜きを2～3日間隔で最低2回実施 ガス抜き深度を、**③の混和深度以内に**	ガス抜き2～3日後に、だいこん等の種で発芽テスト （無処理区を忘れないこと）	施肥・畝立を行なう 完熟堆肥を用いる	無病苗を用いる

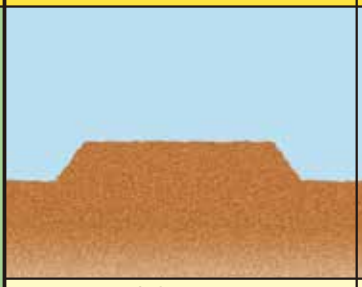
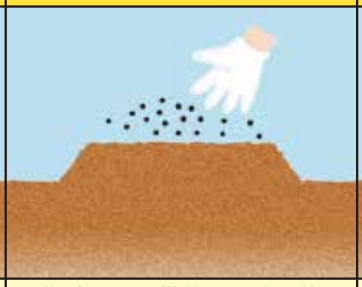
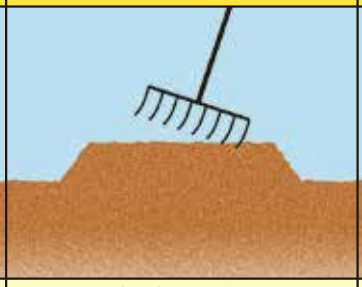
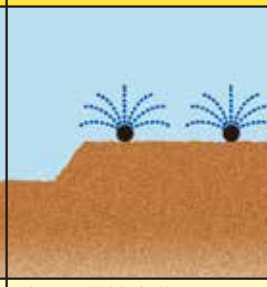
⑥ 畝間注水	⑦ ハウス密閉	⑧ ガス抜き	⑨ 発芽テスト	⑩ 畝　立	⑪ 播種・定植・植え付け
					
肩まで湛水する	約30日間ハウスを密閉し、自然落水とする	約1か月後にガス抜きを2～3日間隔で、最低2回実施 ガス抜き深度を、**③混和深度以内に**	ガス抜き2～3日後に、だいこんなどの種で発芽テスト （無処理区を忘れないこと）	施肥・畝立を行なう 完熟堆肥を用いる	無病苗を用いる

⑤ 散　水	⑥ ガス抜き	⑦ 発芽テスト	⑧ 畝　立	⑨ 播種・定植・植え付け
				
な場合は実施してくだ	一定期間後、ガス抜きを2～3日間隔で最低2回実施 ガス抜き深度を、**③混和深度以内に**	ガス抜き2～3日後に、だいこんなどの種で発芽テスト （無処理区を忘れないこと）	施肥・畝立を行なう 完熟堆肥を用いる	無病苗を用いる

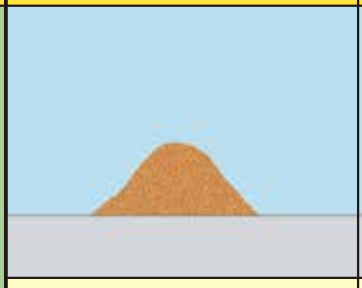
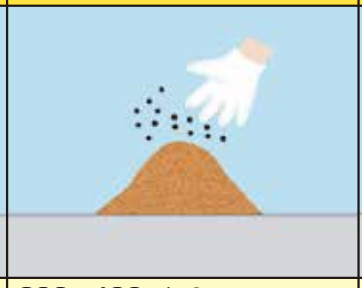
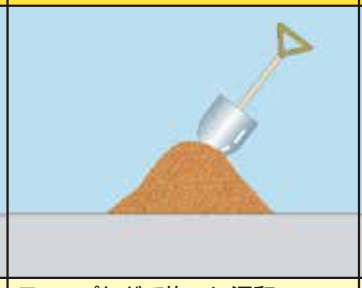
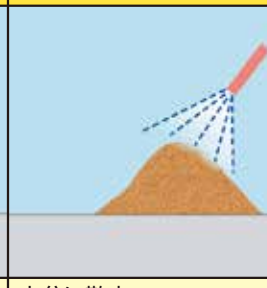




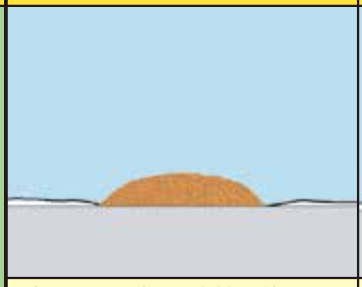
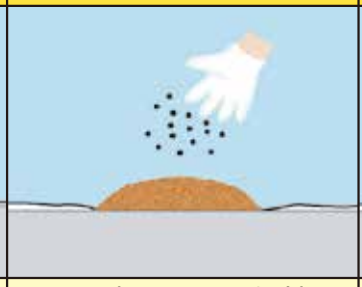
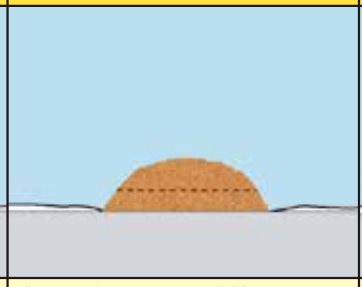
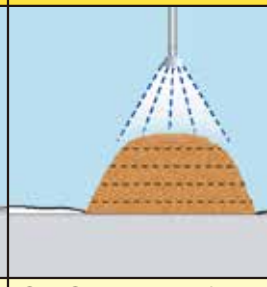
たまねぎ苗床（表層混和）

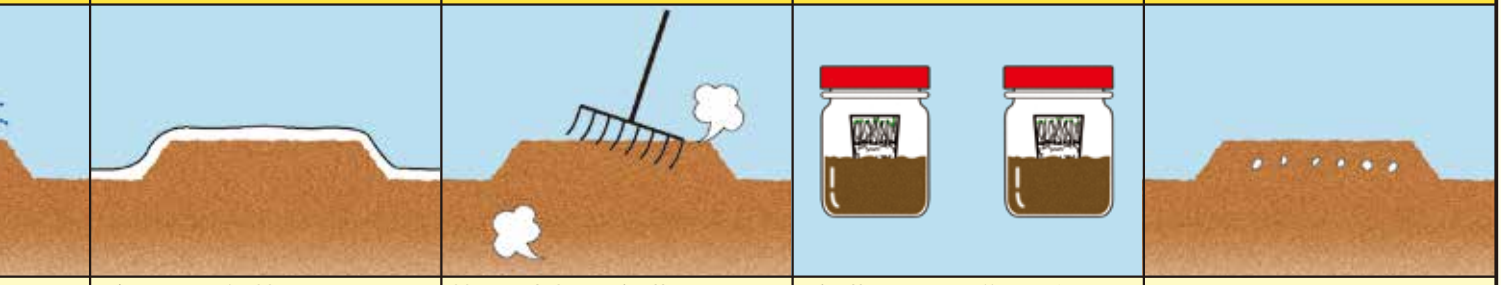
使用場面	① 耕　起	② 均一散布	③ 土壌混和	④ 散　水
				
	ていねいに砕土 植物残渣などを取り除く 土壌が乾燥している場合は耕起前に散水してください	日曹バスアミド散粒器などで、均一散布 10～20g/m²（たまねぎ）	レーキなどで表層混和 （深さ2～3cmまで）	適正な土壌水分に （水不足は効力不足・薬因！） P8.Q2参照

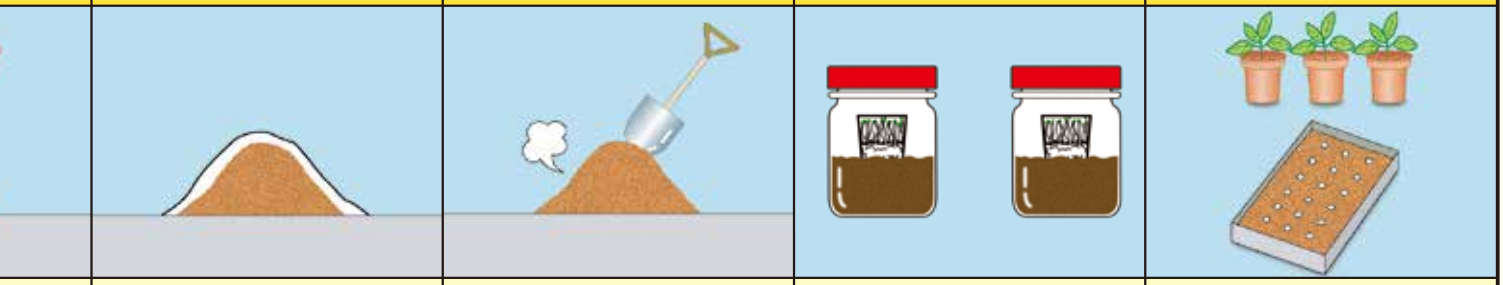
床土消毒

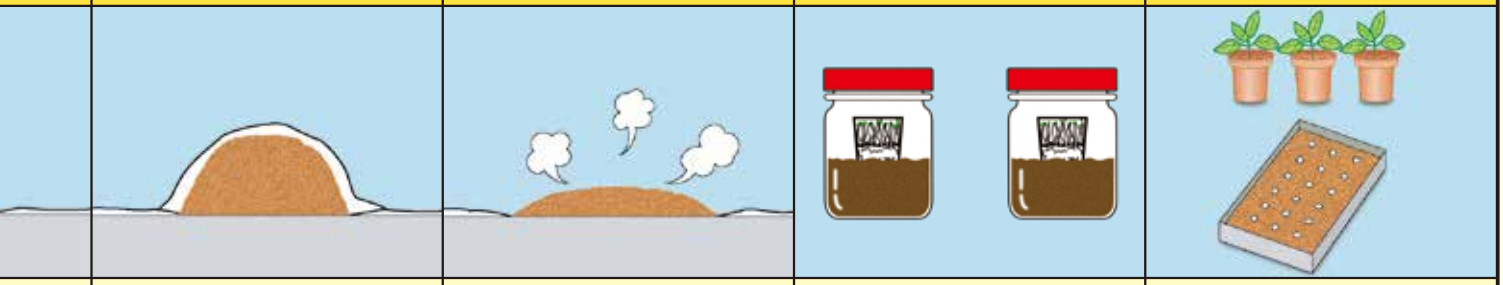
使用場面	① 土壌採取	② 均一散布	③ 土壌混和	④ 散　水
				
		200～400g/m³ （薬量は作物別に確認）	スコップなどで均一に混和	十分に散水 （水不足は効力不足・薬因！）

床土消毒（層状処理法）

使用場面	① 床土の積み上げ	② 均一散布	③ 表層混和	④ 散　水
				
	ビニールの上に、土壌を約1m×1m×10cm積む	40g/m²（200g/m³の場合）	表層混和し、さらに土壌を10cm積む	①～③をくり返し、高さまで積み上げ、十分に散（水不足は効力不足・薬因！）

	⑤ ビニール被覆	⑥ 被覆除去･ガス抜き	⑦ 発芽テスト	⑧ 播　種
				
害の原	ビニールなどで被覆 （被覆期間は十分に！）	被覆を除去し、ガス抜きを2～3日間隔で最低2回実施 レーキなどで深さ2～3cmまで	ガス抜き2～3日後に、だいこんなどの種で発芽テスト （無処理区を忘れないこと）	

	⑤ ビニール被覆	⑥ 被覆除去･ガス抜き	⑦ 発芽テスト	⑧ 播種･植え付け
				
害の原	ビニールなどで被覆 （被覆期間は十分に！）	被覆を除去し、ガス抜きを2～3日間隔で最低2回実施	ガス抜き2～3日後に、だいこんなどの種で発芽テスト （無処理区を忘れないこと）	無病苗を用いる

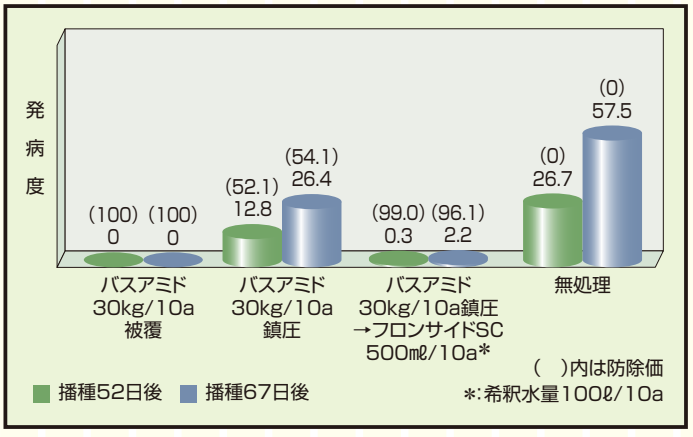
	⑤ ビニール被覆	⑥ 被覆除去･ガス抜き	⑦ 発芽テスト	⑧ 播種･植え付け
				
50cm 水 害の原	ビニールなどで被覆 （被覆期間は十分ににに！）	被覆を除去し、土壌を10cm程度に広げ、ガス抜きを行なう	ガス抜き2～3日後に、だいこんなどの種で発芽テスト （無処理区を忘れないこと）	無病苗を用いる

Q8 鎮圧でキャベツ・はくさいの根こぶ病を防除する際の、効果的な使用方法を教えてください。

バスアミドは鎮圧でも効果を発揮しますが、激発条件の場合は、効果が不十分です。その際は、フロンサイドSCとの体系防除をおすすめします。

激発時の効果	作業手順
○	耕起 → バスアミド散布・混和 → 散水 → 被覆 → 被覆除去・ガス抜き → 発芽テスト → 定植
△	耕起 → バスアミド散布・混和 → 鎮圧 → 散水 → ガス抜き → 発芽テスト → 定植
○	耕起 → バスアミド散布・混和 → 鎮圧 → 散水 → 第2回ガス抜き時にフロンサイドSC土壌混和 → 発芽テスト → 定植

○根こぶ病 （平成13年　日本曹達株式会社　磐梯農場）



●供試作物：かぶ
●品　　種：スワン
●発　　生：自然発生
●処　　理：11/13（バスアミド処理）、12/4（第1回ガス抜き）、12/5（第2回ガス抜き・フロンサイドSC混和※）、12/6（土壌採集）
●播　　種：12/14
●調　　査：平14/2/25（播種52日後）、3/12（播種67日後）

※フロンサイドSCはかぶに未登録

Q9 表層混和処理をする際の注意点は何ですか?

通常混和処理(混和深度15～20cm)に比べ表層混和処理(レーキで浅く2～3cm混和)は、土壌中のMITCガスの影響が比較的長く認められる傾向があるため、以下の点に注意してください。

1)混和深度が浅い分バスアミド粒子の密度が高くなるため、確実にMITCガス化するよう多めに散水してください。
2)被覆期間も確実にとってください。
3)ガス抜きも必ず実施してください。

Q10 苗床の床土消毒をする場合の、簡単な方法を教えてください。

床土層状処理法がおすすめです。

○床土層状処理法の手順

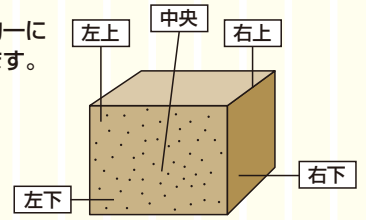
❶ビニールの上に土壌を1m×1m×高さ10cm積む
↓
❷バスアミドを40g/m²均一に散布(200g/m²の場合)
↓
❸表面を撹拌してさらに土壌を10cm積む
↓
❹2と3をくり返し、高さ50cmまで積み上げる
↓
❺十分に散水する
↓
❻ビニールなどで14日間被覆する
↓
❼被覆除去後、土壌を高さ10cm程度に広げガス抜きする

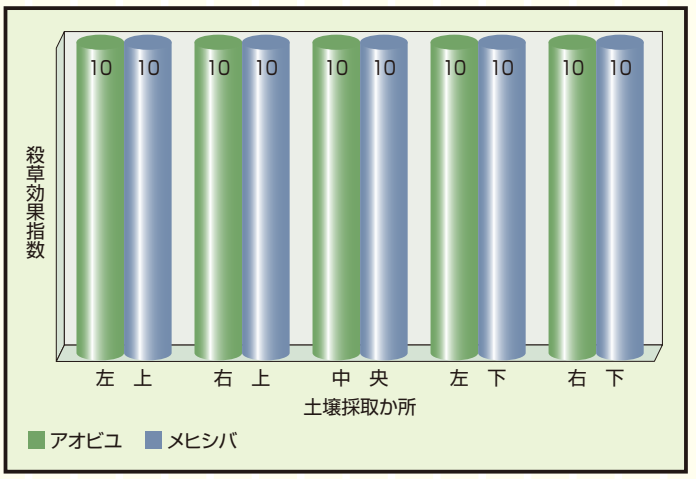
○バスアミドの床土層状処理効果

(平成12年　日本曹達株式会社　榛原農業研究所)

床土層状処理でも、床土全体を均一に消毒できることが確認されています。

処理前に土壌中へ雑草種子を均一に混入し、床土表層処理を行ない、被覆除去後5か所から土壌採取。ガス抜き後灌水し、殺草効果を調査。





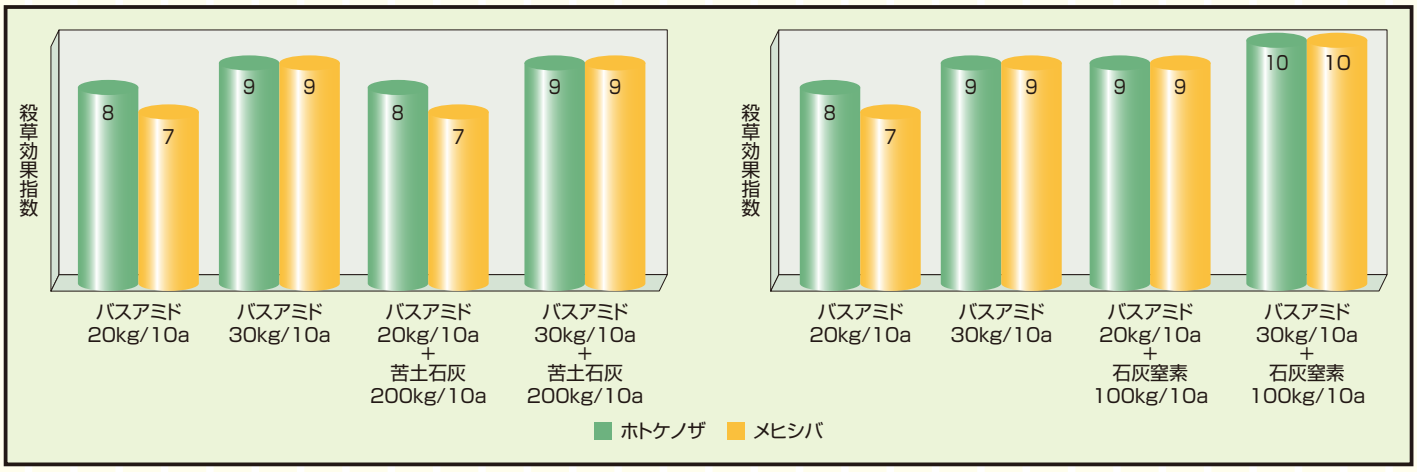
●処理:4/28
●調査:6/5
●薬害:なし(はくさい・レタスで発芽テスト)
●指数:0(無害)～10(枯死)

Q11 苦土石灰や石灰窒素と同時に混和しても大丈夫ですか?

苦土石灰200kg/10a、石灰窒素100kg/10a程度との同時混和であれば、問題ありません。

○バスアミドの苦土石灰および石灰窒素混和による殺草効果

(平成12年　日本曹達株式会社　榛原農業研究所)



●処理：9/29　●調査：11/14　●薬害：なし(キャベツ･レタスで発芽テスト)

指数：0(無害)～10(枯死)

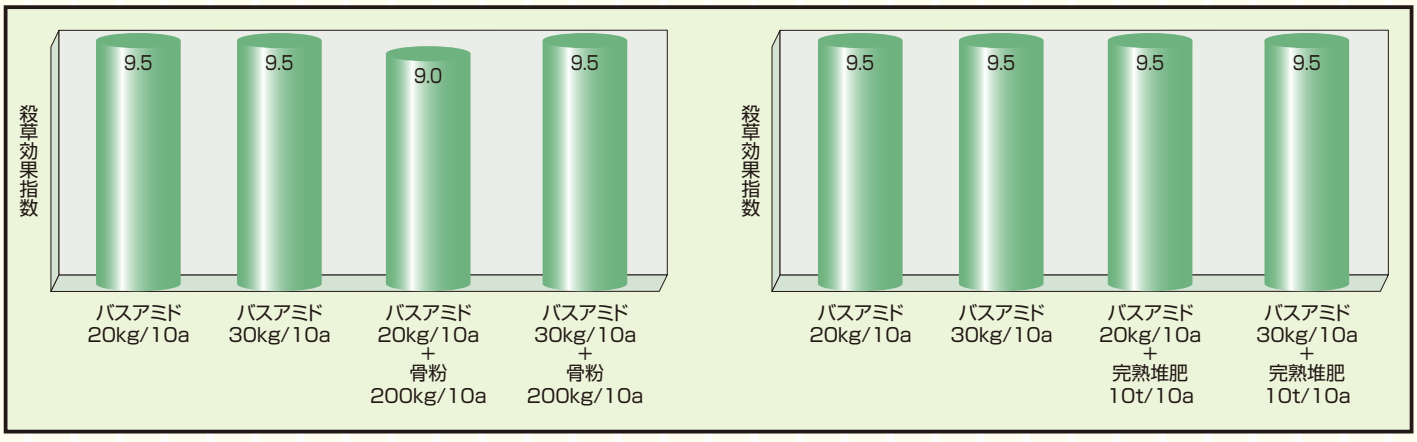
●試験方法：深度15cmで混和後に散水し、7日間被覆。処理7日後と12日後にガス抜きを行ない、46日後に殺草効果を調査。

Q12 骨粉や完熟堆肥と同時に混和しても大丈夫ですか?

骨粉200kg/10a、完熟堆肥10t/10a程度との同時混和であれば、問題ありません。ただし、未熟な堆肥は使用しないでください。

○バスアミドの骨粉および完熟堆肥混和による殺草効果(ホトケノザ)

(平成12年　日本曹達株式会社　榛原農業研究所)



●処理：10/13　●調査：12/13　●薬害：なし(キャベツ･レタスで発芽テスト)

指数：0(無害)～10(枯死)

●試験方法：深度15cmで混和後に散水し、14日間被覆。処理14日後と19日後にガス抜きを行ない、61日後に殺草効果を調査。

Q13 雑草に対する効果を草種別に教えてください。

登録範囲内の高薬量処理では、
広い草種に対し十分な効果が認められています。
低薬量では、イネ科雑草・スベリヒユにやや弱い傾向がみられます。

■殺草効果

○通常混和処理

薬剤名	薬量 (kg/10a)	イネ科雑草				広葉雑草	
		メヒシバ	ノビエ	アキノエノコログサ	スズメノカタビラ	アオビユ	アカザ
バスアミド	20.0	○	○	○	◎	◎	◎
	30.0	◎	◎	◎	◎	◎	◎

薬剤名	薬量 (kg/10a)	広葉雑草					
		スベリヒユ	ハキダメギク	オオオナモミ	ホトケノザ	ハコベ	カラスノエンドウ
バスアミド	20.0	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	30.0	◎	◎	◎	◎	◎	◎

○表層混和処理

薬剤名	薬量 (kg/10a)	イネ科雑草			広葉雑草		
		メヒシバ	ノビエ	スズメノカタビラ	アオビユ	スベリヒユ	ハキダメギク
バスアミド	10.0	○	△～○	◎	◎	△～○	◎
	20.0	◎	◎	◎	◎	◎	◎

薬剤名	薬量 (kg/10a)	広葉雑草			
		ホトケノザ	ハコベ	ナズナ	カラスノエンドウ
バスアミド	10.0	◎	◎	◎	○～◎
	20.0	◎	◎	◎	○～◎


スズメノカタビラ


ノビエ


メヒシバ


スベリヒユ


ホトケノザ


アカザ



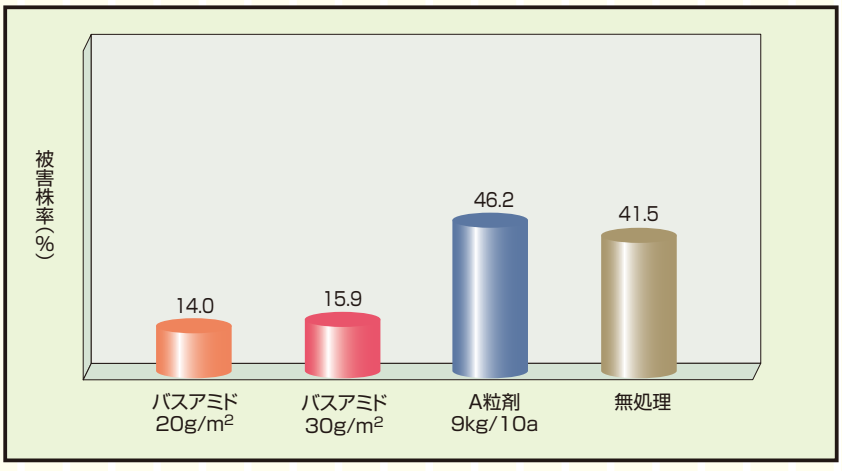
Q14 害虫に対しても効果がありますか?

ネギハモグリバエに
効果を示すことが確認されています。

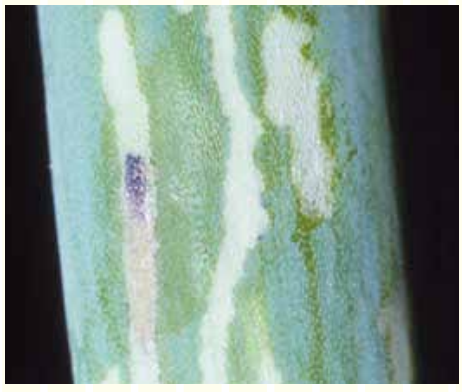
■バスアミドの殺虫活性

○ネギハモグリバエ(ねぎ)

(平成5年　新潟県園芸試験場)



●品　　種：元蔵
●発生状況：中発生
●は　　種：8/6
●区制･面積：1区5m^2,3連制
●処　　理：(バスアミド)7/6､(A剤)8/6
●ガス抜き：(バスアミド)7/16,28
●調　　査：9/17



ネギハモグリバエ被害



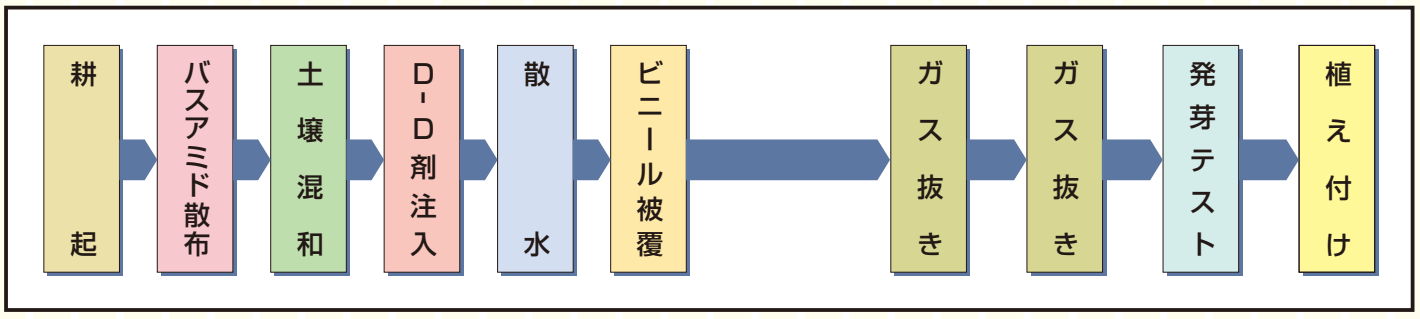
ネギハモグリバエ成虫



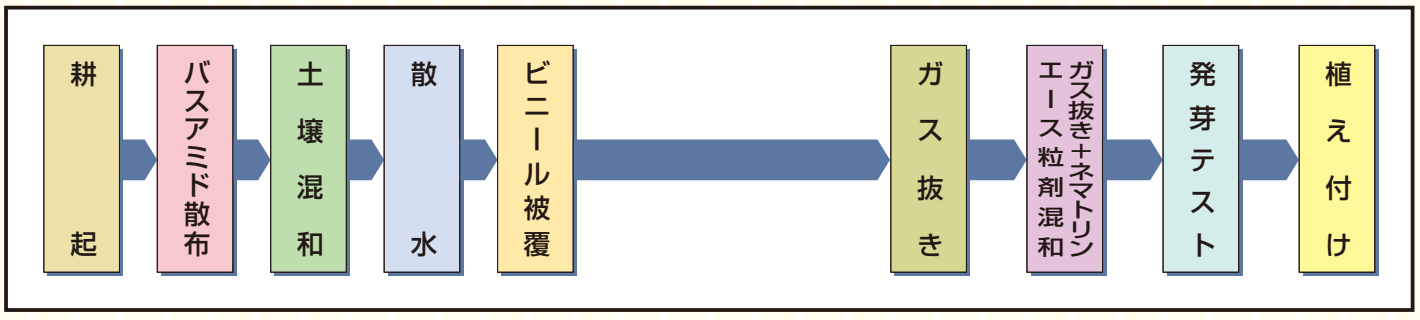
Q15 殺センチュウ剤との体系処理方法を教えてください。

バスアミドはセンチュウに対して効果が不十分な場合があるので、殺センチュウ剤との体系処理をおすすめします。

■D-D剤との体系処理

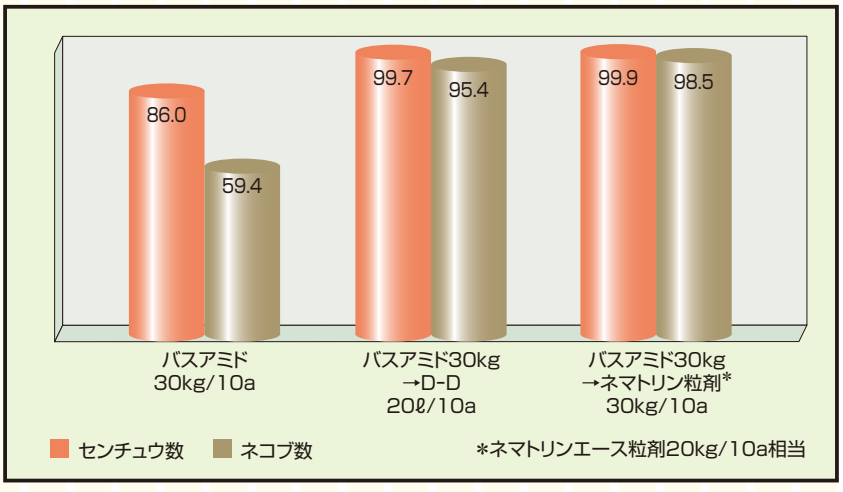


■ネマトリンエース粒剤との体系処理



○殺センチュウ剤との体系処理効果

（平成11年　(社)日本植物防疫協会研究所）



●供試作物：ミニトマト
●対象害虫：サツマイモネコブセンチュウ
●処　　理：7/29(バスアミド、D-D剤)、8/15(ネマトリン粒剤)
●被　　覆：13日間
●ガス抜き：8/11,15
●定　　植：8/18
●調　　査：10/5,6

Q16 バスアミドとクロルピクリンの同時処理は可能ですか?

できません。クロルピクリンとの同時処理は、作物への影響期間が長くなるため、絶対避けてください。

○クロルピクリンとの同時処理効果

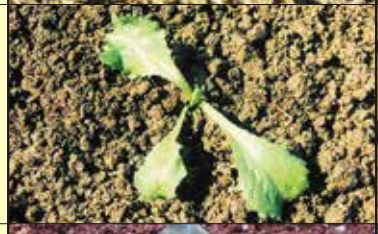
（平成14年　日本曹達株式会社　榛原農業研究所）

薬　剤	2回目ガス抜きからの安全確認日数（発芽テスト）
バスアミド 20kg/10a	0日
バスアミド 30kg/10a	0日
バスアミド 20kg/10a ↓ クロルピクリン 20ℓ/10a	32日以上
バスアミド 30kg/10a ↓ クロルピクリン 30ℓ/10a	32日以上
クロルピクリン 20ℓ/10a	4日
クロルピクリン 30ℓ/10a	4日

●地　　温：16.5℃（10cm深）
●区　　制：1区4m^2 2反復
●処　　理：4/11（バスアミドを散布･混和し、散水。その後30cm間隔･15cm深度でクロルピクリンを点注処理。）
●被　　覆：7日間
●ガス抜き：4/18,22
●ガス濃度測定：被覆除去後に測定
●発芽テスト：定期的に土壌を採取し、だいこん種子で検定



Q17 バスアミドのガス抜きが不十分な場合に生じる薬害の症状を教えてください。

	定植時	軽い薬害症状	強い薬害症状
トマト			
なす			
きゅうり			
ピーマン			
レタス			
キャベツ			
はくさい			
こまつな			

本剤使用の際は

●使用前にはラベルをよく読んでください。
●ラベルの記載以外には使用しないでください。
●小児の手の届く所には置かないでください。

日本曹達株式会社
〒100-8165 東京都千代田区大手町２丁目２番１号
お問合せ(03) 3245-6178
（平日9～12時、13～17時、土日祝祭日を除く）
ホームページアドレス　http://www.nippon-soda.co.jp/nougyo/
大阪支店 ☎(06)6229-7343　関東営業所 ☎(048)677-6010
札幌営業所 ☎(011)241-5581　福岡営業所 ☎(092)771-1336
仙台営業所 ☎(022)227-1741

本資料は、03年7月現在の登録に基づいています。

OT-2111

日曹・バスアミド散粒器

取扱い説明書

使用前に必ずこの「取扱い説明書」をよくお読み頂き、
正しい使い方で安全にご使用ください。
この取扱い説明書は大切に保管しておいてください。

＊本書に記載した⚠の表示のある注意事項は、人身事故などの危険が考えられる重要な項目です。また、バスアミドの袋に表示されている注意事項と合わせて、よくお読みになって必ずお守りください。

日本曹達株式会社

名　称

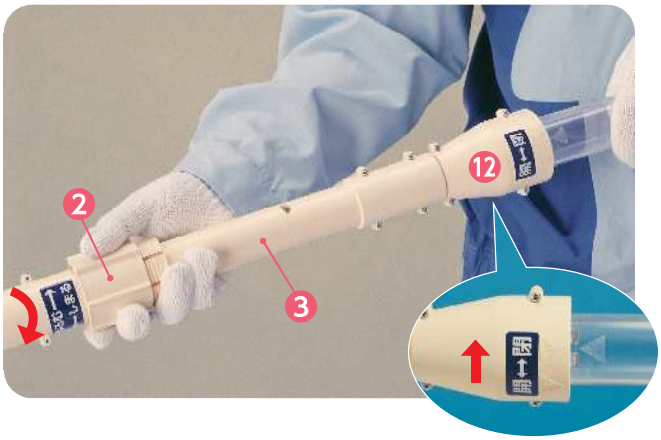


散粒器の組立て方

＊まず、バスアミド10Kg袋裏面に表示された注意事項をあらためてお読みください。

1 先端ノズル①の調節リング②をゆるめて

先端ノズル①の調節リング②をゆるめてアジャストパイプ③を差し込み、調節リング②を締める。その時、バルブは必ず 閉 にしておいてください。



散粒器の組立て方

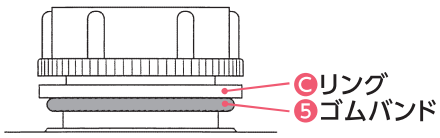
2 リュックは地面に平行に寝かせる

リュックは地面に平行に寝かせ、バスアミド10Kg袋を箱から取出し、両端の穴の部分をリュック上部の2箇所のフック⑪に引っかけます。



3 注出口Aのリング©の内側に

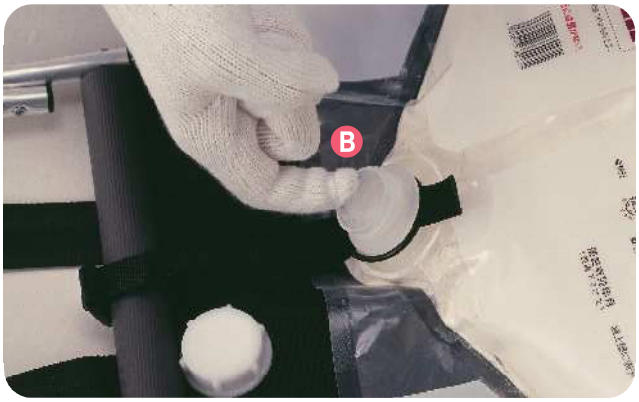
袋下部の注出口Aのリング©の内側に丸いゴムバンド⑤を引っかけ、袋とリュックを固定します。





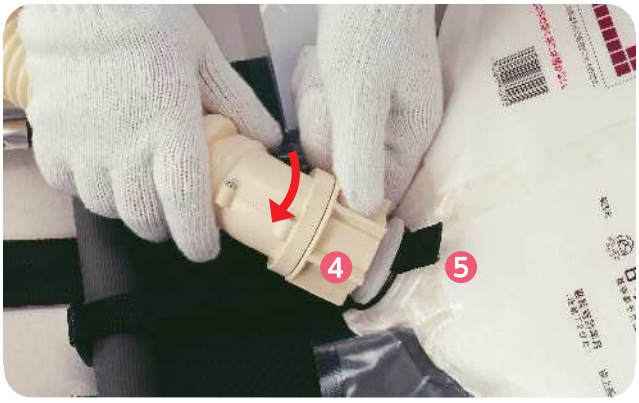
4 中栓のプルリングBをひっぱり開口

袋のキャップを開け、中栓のプルリングBをひっぱり開口します。



5 開口部にエルボー④を

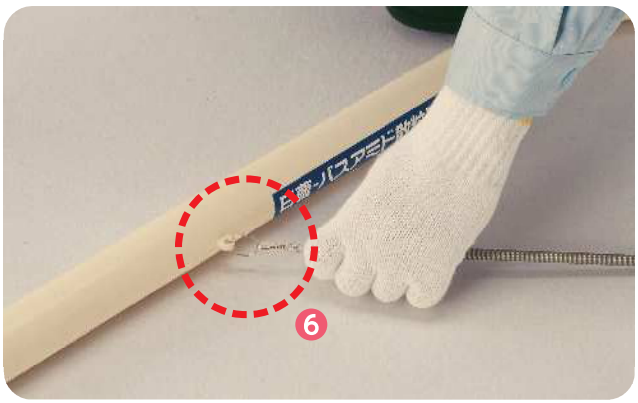
開口部にエルボー④をねじこんで接続してください。
この時、丸いゴムバンド⑤がズレていないか十分確認してください。



散粒器の組立て方

6 パイプリード⑥を先端ノズルに

パイプリード⑥を先端ノズル①に接続してください。



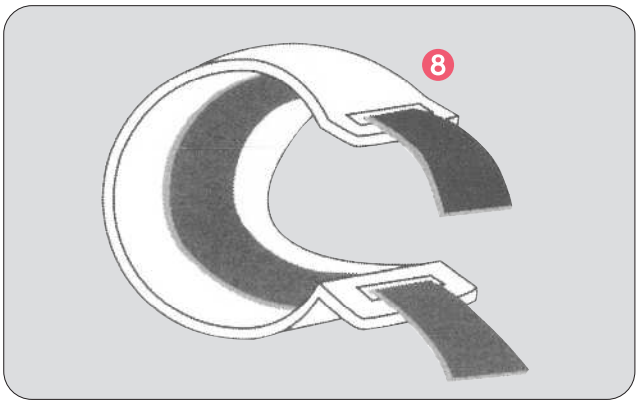
7 リュック全体を起こし、背負う

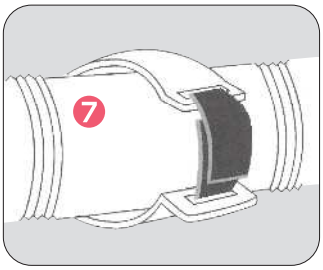
リュック全体を起こし、背負います。この時、薬剤が落下しないようバルブが 閉 になっていることを再度確認してください。

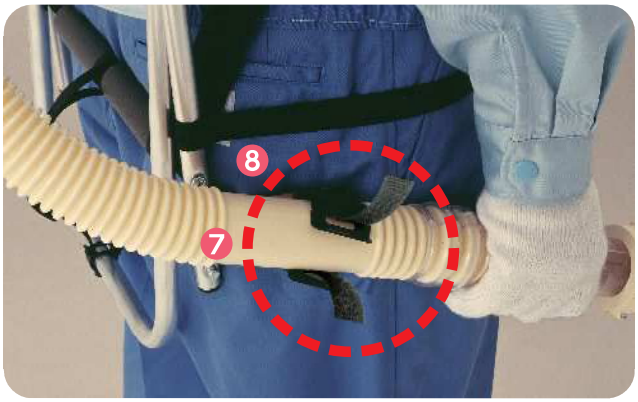


8 蛇腹パイプ⑦を固定金具⑧に

パイプ固定金具⑧の両端の四角い穴に、補強用の「マジックテープ」を通してください。
その後、蛇腹パイプ⑦をパイプ固定金具⑧に差し込み、上から押さえて止めてください。

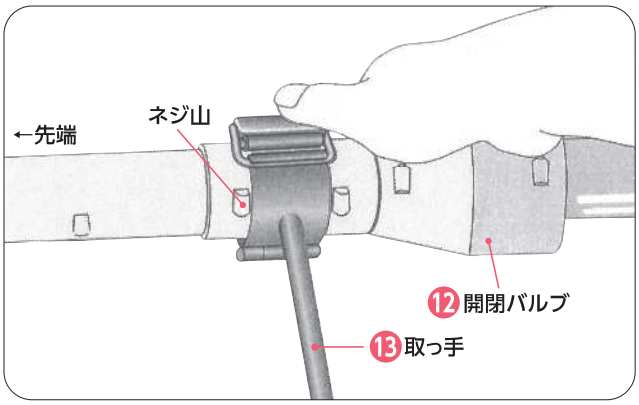


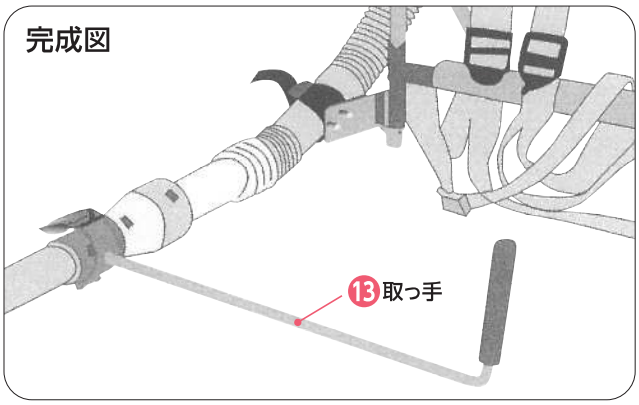




9 取っ手をつける

開閉バルブ⑫の先端側の厚手の部分にネジ山をさけ「取っ手」⑬のワンタッチ金具をはめ、ネジ山にひっかからないように締めてください。
（この際、先端ノズルと「取っ手」が直角の位置関係にない場合は調節リングをゆるめ先端ノズルの角度を調節してください。）





10 ショルダーバックル⑨が体にフィット

リュック左右に取付けてあるショルダーバックル⑨が体にフィットするように締め、ウエストベルト⑩も調整して締めてください。



11 組立てはこれで完成

組立てはこれで完成です。
写真のように、右手でバルブをつかんで散布します。



*写真1～10は、組立て過程のため、軍手使用の写真となっていますが、実際に本剤を散布する際は、**不浸透性手袋**を着用してください。(写真11参照)

散布方法

1 先端ノズルが地面と平行になるように

透明樹脂部分を握り、腕を押し下げるように伸ばし、先端ノズルが地面と平行になるよう、パイプリードのひもとアジャストパイプの長さを調節してください。



2 ノズルを左右にふる

この状態でノズルを左右にふって、問題なければバルブを開にして散布を開始してください。バルブは開マークと透明部の▲マークをあわせると開き、薬剤がスリット穴から散布されます。手が疲れる場合は高さの再調整を行ってください。



3 散布中は腕を押し下げる

散布中は腕を押し下げるように伸ばしてください。
腕を曲げるとジャバラが折れ曲がり、薬剤がスムーズに落下しません。



4 ノズルを大きく半円を描くようにふる

散布する土壌に沿って歩きながら、ノズルを大きく半円を描くようにふってください。
このとき、先端ノズルが少しでも上を向いていると、薬剤の流れが悪くなりますのでご注意ください。



5 途中で散布を中止する場合

もしも途中で散布を中止する場合は、バルブの閉マークを▲マークに合わせれば薬剤の落下は止まります。



6 薬剤がすべて落下し完了

散布作業は、袋内の薬剤がすべて落下し終えたところで完了とし、作業後、ノズルなどに付着した薬剤はブラシ等でよく払い落としてください。



＊本剤（バスアミド散粒剤）の詳しい使用方法・注意事項については、チラシ・リーフなどを参照してください。

⚠使用時・保管時の注意事項

※下記に記載した注意事項はよくお読みになって必ずお守りください。

⚠使用時の注意事項

●散粒器はバスアミド10Kg袋専用に設定されています。10Kg以外の物や他の薬剤に使用しないでください

●散粒器本体の上に別袋のバスアミドをのせたり、腰掛けたりしないでください。

●バスアミド10Kg袋を移送するときは、注出口などが痛まないように取扱ってください。

●バスアミド10Kgは必ず作業現場ですべてご使用ください。また袋に残った薬剤や器具にたまった薬剤も作業現場で使いきってください。

●使用後は、空き袋と中栓とキャップは圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。

●ノズルやパイプは固い物にぶつけたり、落としたりしないようにしてください。樹脂部が破損する場合があります。

●バスアミドをセットした散粒器を背負った状態でジャンプしたり、走ったりしないでください。フック部に異常な力がかかり、袋が引きちぎれる場合があります。

●火気厳禁。リュックの背あて部やプラスチック部は火の気で変形したり燃えたりして危険です。

●寒冷地(10℃以下)や高温下(50℃以上)でのご使用はさけてください。

●散粒器の手入れには、揮発性薬品やアルカリ洗剤は使用しないでください。変質・変形の原因になります。台所用中性洗剤をやわらかい布にひたして汚れを拭き取ってください。

⚠保管時の注意事項

＊長期間保管する場合は、必ず散粒器に付着した薬剤を圃場内でブラシなどで払い落とした後に水でよく洗い乾燥させてから、出来るだけ梱包ケース(ダンボール)に入れた上で、暗所に保管してください。蛇腹パイプを不自然に折り曲げたり、変形させた形で保管を行いますと、商品の変形や変質・劣化等の原因となりますので、ご注意ください。洗浄した水は河川等に流さないでください。

＊直射日光に長期間さらすと樹脂が劣化しやすくなります。保管場所は屋外や圃場等に放置せず、小児の手の届かない倉庫・物置等に保管してください。

＊寒冷地では樹脂部の強度が劣化しやすくなります。衝撃や重量のかからない所に保管してください。

その他の注意

●本取扱い説明書に従って使用しなかったり、誤った使い方・本品を改造して使用した為に発生した事故や損害については当社は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

●本品の分解はしないでください。

●補修部品の取扱いはしておりません。破損した場合は新しい製品をご使用ください。

お問合せ 日本曹達株式会社
東京都千代田区大手町2丁目2番1号
TEL：03-3245-6178

No.869-2001D